



# 第35回 関西ライフサイエンス リーディングサイエンティストセミナー



本セミナーは、ライフサイエンス分野で最先端の研究を展開されている関西の先生方にご講演をいただき、製薬、医療機器、診断薬、健康食品、医療関係者などのライフサイエンス関係者および一般の方々に、健康・医療産業に対するインスピレーションと産業化へのイメージーションを感じていただくことを目的としています。

このことは、産官学にわたる組織横断的なコミュニティの醸成と、産官学の対話促進につながるものと期待しています。

本セミナーは、3か月に一度の頻度で開催し、毎回2名の講師の先生から、最先端の研究についてホットな話題をお聞きいただけます。皆様のご参加をお待ちしております。

記

日時：2023年4月3日（月）14:00—16:00

※会場参加の方は13:40以降に入室可能です

開催方法：ハイブリッド開催

◆会場参加（申込先着順50名様）

：グランフロント大阪北館 タワーC 8F

ナレッジキャピタルカンファレンスルーム C-07

<http://www.kc-space.jp/conference/items/towerC.pdf>

◆オンライン（zoomウェビナーを使用します）

参加費：無料

主催：NPO法人近畿バイオインダストリー振興会議、公益財団法人都市活力研究所

共催：NPO法人バイオグリッドセンター関西

後援：関西医薬品協会、バイオコミュニティ関西 (BiocK)

講演 I 14:00-15:00

「量子化学計算を用いた構造生命科学研究」

大阪大学大学院 薬学研究科 量子生命情報薬学分野 教授 福澤 薫 氏

量子化学計算は、分子の電子状態に基づいて、分子間相互作用の精密な評価や化学反応解析を実施できる有効な手法である。中でも日本発のフラグメント分子軌道 (FMO) 法は最先端の手法であり、これまでにタンパク質-リガンドの結合性予測やタンパク質-タンパク質間相互作用、核酸の配列特異性など様々な生体分子系の分子認識機構を明らかにしてきた。本講演では、最近の FMO 法と構造生物学との連携や産学官連携の FMO 創薬コンソーシアムの活動について紹介する。

講演Ⅱ 15:00-16:00

「黄色ブドウ球菌クオラムセンシングの皮膚および全身感染症における役割」

大阪大学免疫学フロンティア研究センター・皮膚アレルギー生体防御 教授 松岡 悠美 氏

*Staphylococcus aureus* はヒトの鼻腔や腸管に常在するものの、多剤耐性菌の院内感染症や皮膚炎の悪化に関与する。我々は、*S. aureus* のアトピー性皮膚炎と院内多剤耐性菌感染のメカニズムについて、クオラムセンシングという菌が自身の生息密度を感知するシステムに着目して解析を行ってきた。ヒト研究、動物モデル、ゲノム解析から分かってきた新たな病原性発揮のメカニズムについて紹介したい。

申込先：参加希望者は2023年3月31日（金）までに、NPO 法人近畿バイオインダストリー振興会議のホームページからお申込みください。

URL：<https://kinkibio.com/informations/3074>

※お申込みの際に、会場・オンラインどちらか選択してください。

※会場でのご視聴は申込先着50名様といたします。

それ以降の方は、オンライン視聴となりますがご了承ください。



こちらからもお申込みいただけます

問合先：NPO 法人近畿バイオインダストリー振興会議 事務局 電話：06-4963-2107（菅原、大嶋）  
公益財団法人都市活力研究所 電話：06-6359-1322（味村）